

一般社団法人 日本臨床腫瘍薬学会 令和8年度 定時総会 議事録

日 時：令和8年3月6日（金）16時00分～18時08分

会 場：TKP ガーデンシティ PREMIUM 天神スカイホール メインホールA（ハイブリッド会議）

現地参加者（敬称略）

- 代 議 員：足立 昇平、網野 一真、荒井 元志、五十嵐 保陽、市村 丈典、伊藤 剛貴、上ノ段 友里、浮谷 聡、内山 将伸、梅原 健吾、衛藤 智章、江淵 愛、大谷 俊裕、大野 梨絵、大畑 紘一、岡本 勇二、小澤 勇人、柿本 秀樹、香取 哲哉、川澄 賢司、高山 俊輔、坂田 幸雄、坂本 靖宜、篠原 旭、鈴木 訓史、高木 淳也、高田 慎也、辻 将成、永井 大地、畠山 智明、原田 知彦、久松 大祐、藤田 行代志、本田 雅志、牧 陽介、松村 敦子、三星 勇輝、三宅 知宏、村上 明男、山口 俊司、山田 早、横川 貴志
- 理 事：近藤、大塚、小笠原、鈴木（賢）、松井、米村、青柳、川上（理事と代議員を兼任、以下「兼任」）、小井土（兼任）、櫻井（兼任）、清水（兼任）、下川、鈴木（真）、高橋、玉木、長久保、中澤、中山（兼任）、縄田（兼任）、野村、花香、松尾（兼任）、村田（兼任）、山口（健）、山口（拓）
- 監 事：加藤、堀越、山本
- 幹 事 長：中澤、福田
- 名 誉 会 員：遠藤、川尻
- 総 務：飯塚、石原、上ノ段、浮谷、長渡、畠山、本田（泰）、本田（雅）、松浦、餅原
- 事務局（毎日学術フォーラム）：大川、平坂

Web参加者（敬称略）

- 代 議 員：有馬 純子、青山 剛、安藤 洋介、市倉 大輔、内田 まやこ、大橋 養賢、小澤 有輝、金谷 法好、組橋 由記、小林 一男、齋藤 佳敬、鈴木 直哉、橋本 幸輝、宮本 康敬
- 総務：内坪

欠席者（敬称略）

- 代 議 員：池末 裕明、岩本 義弘、植木 大介、太田 貴洋、河添 仁、櫻下 弘志、谷川 大夢、辻 大樹、殿村 直也、村上 通康、米良 千春

1. 開会の辞

大塚副理事長より開会挨拶が行われた。

2. 理事長挨拶

近藤理事長より挨拶が行われた。

3. 来賓挨拶

名誉会員である遠藤氏、川尻氏より挨拶が行われた。

4. 議案審議

一般社団法人日本臨床腫瘍薬学会の定時総会に先立ち、進行役の高橋総務委員長より代議員総数75名のうち64名の出席があり、本総会は定款第17条の定足数を満たしており、成立している旨が報告された。

議長・副議長選出

本総会における議長・副議長の選出を行い、議長に上ノ段友里氏、副議長に畠山智明氏が選出された。

5. 協議事項

第1号議案：令和7年度 事業報告 および 第2号議案：令和7年度 決算報告・監査報告

米村副理事長および各委員会・ワーキンググループ委員より、令和7年度における学会全体の活動および総務、財務、教育研修、地域医療連携、メーリングリスト運営、広報出版、臨床研究、認定制度、会員、会誌編集、渉外、利益相反、ガイドライン、実地研修、がん治療薬学生エキスパートの各委員会事業ならびにかかりつけ薬剤師・薬局のがん薬物療法に関する業務指針、免疫チェックポイント阻害薬マネジメント教育プログラム開発、専門性の高い薬局薬剤師の養成推進、がんゲノム医療、認定取得者のための支援体制整備検討、患者・市民参画、医療DX、ダイバーシティ推進の各ワーキンググループの活動について、スライドに従い報告された。

山口（健）財務委員長より、令和7年度決算が報告された。収支報告書（令和7年1月1日～同年12月31日）、貸借対照表（令和7年12月31日現在）、損益計算書（令和7年1月1日～同年12月31日）、販売費および一般管理費内訳書（令和7年1月1日～同年12月31日）について、配布された決算報告書に従い報告された。

堀越監事より令和7年度における会計の帳簿や書類、通帳等を令和8年2月7日に監査し、全て適法かつ的確に執行されたことを確認したと報告された。

上ノ段議長より、定款第17条により、令和7年度事業報告および令和7年度決算報告の両議案の決議は、総代議員の議決権の過半数を有する代議員が出席し、出席した当該代議員の議決権の過半数をもって行うと定められている旨が説明された。総会に出席の64名の代議員の表決を取り、賛成多数（賛成64名）をもって第1号議案および第2号議案は一括して承認された。

第3号議案：令和8・9年度 理事・監事の選任

福田役員選任管理会幹事長より、令和8・9年度理事・監事の選任について、資格審査の報告、定款第9条第2項に基づき理事候補者の選任選挙および第9条第1項に基づき監事候補者の信任投票を行った旨が説明された。総務委員会の松浦綾子氏を第三者立会人として開票を行い、理事25名、監事3名が令和8・9年度役員として選任された旨がスライドに従い報告された。

上ノ段議長より、定款第17条により、令和8・9年度 理事・監事の選任の決議は、総代議員の議決権の過半数を有する代議員が出席し、出席した当該代議員の議決権の過半数をもって行うと定められている旨が説明された。総会に出席の64名の代議員の表決を取り、賛成多数（賛成64名）をもって第3号議案は承認された。

6. 報告事項

1) 令和 8 年度事業計画

松井副理事長より、報告事項 1)、2)については、定款第 40 条および同 41 条に基づき、令和 8 年度開始の前日である令和 7 年 12 月 31 日までに理事長が作成し、令和 8 年 2 月 14 日の理事会決議を経て、本日の総会報告に至っていることが事前に説明され、令和 8 年度事業計画が配布資料に従い報告された。

2) 令和 8 年度事業予算

山口（健）財務委員長より、令和 8 年度事業予算がスライドに従い報告された。

3) 外来がん治療認定薬剤師認定結果

外来がん治療認定薬剤師更新状況

外来がん治療専門薬剤師認定結果

櫻井認定制度委員長より、外来がん治療認定薬剤師認定結果、外来がん治療認定薬剤師更新状況、外来がん治療専門薬剤師認定結果がスライドに従い報告された。

はじめに、新規の外来がん治療認定薬剤師として認定を受けたのは 302 名であったと報告された。令和 7 年度新規認定より筆記試験の免除規定を導入し、筆記試験の合格資格を 2 年間有効とする運用に改正されたことが報告された。次に、外来がん治療認定薬剤師更新者は 534 名となる見込みが報告された。最後に、外来がん治療専門薬剤師は認定審査を年 6 回実施し、219 名が承認された旨が報告された。令和 8 年度は令和 7 年度同様の体制で実施する旨が報告された。

4) 名誉会員の推薦

近藤理事長より、名誉会員として加藤裕芳氏が推薦され、理事会において承認されたと報告があり、加藤裕芳氏に名誉会員記が授与された。

5) 質疑応答

畠山副議長より、2025 年度から代議員の施設および地域で活躍の日本臨床腫瘍薬学会会員の意見を含め、学会運営等について、意見等を募ることになった旨の説明がされた。

はじめに、2025 年度の 2 つの意見への対応について、現状が報告された。櫻井認定制度委員長より、各地域で開催されるオンコロジー研修会の単位付与の条件見直しについて、懸念とされていた「成果報告書（200 字程度）」以外の選択肢も認める方針とし、不正防止に配慮しつつ、受講者の負担が増えない条件に変更し、現在は新しい運用で単位付与が行われている旨が報告された。長久保会員委員長より、会員管理システムの見直しについて、改修には多額の費用が見込まれるうえ、学生会員の急増に伴う管理方法の見直しなど、同時に検討すべき課題が増えていることから、全体の整合性や優先順位を慎重に判断する必要があり、2026 年度も引き続き検討を進める予定である旨が報告された。

次に、2026 年度における意見として、坂田幸雄代議員および香取哲哉代議員より説明された。

まず、坂田幸雄代議員より、青森県は日本一の短命県であり、現在、県をあげて短命県返上に力を入れている。地域格差や医療資源の偏在も大きいことから、薬剤師の地域連携力向上が重要であり、若手薬剤師等が学べる場として青森県での学術大会・研修会開催などの企画を検討してほしいとの意見があった

これに対して近藤理事長より、現在、研修会はオンライン方式を中心に実施しており、学術大会は大勢の参加者を収容できる会場の確保が必要であることから、現状では主要都

市での開催を検討せざるを得ない状況である。ただし、青森県の取り組みには学会としても大きな関心を寄せており、今後、企画検討の参考にする。また、講師の派遣を行う地域医療連携事業や、2025年9月に立ち上げたダイバーシティ推進ワーキンググループにて、地域医療を支える会員の声を学会運営に反映する機会もあるため、ぜひ活用を検討してほしいとの回答があった。

続いて、香取哲哉代議員より病院・薬局を問わず全薬剤師のスキル向上が重要であるが、研修会への参加における人手不足やコスト負担が大きい。がん診療病院連携研修の研修費について、募金やクラウドファンディングで補助的にお金を集め、多くの保険薬局薬剤師の先生が病院に研修に行くのが当たり前の時代になるようにしたいとの意見があった。

これに対して、縄田実地研修委員長より、より多くの薬剤師が研修機会を得られるよう、募金やクラウドファンディングを活用して支援の仕組みを整えていく考えは、意義深く、地域の薬剤師の研修を後押しし、がん医療全体の質向上につながるという視点は、学会としても共感している。一方で、学会が主体となるには運営体制や財務面、継続性などの課題が多く、現時点で具体的な実施は難しい。ただし、薬局薬剤師の研修機会拡大は重要なテーマであり、今後の制度検討の参考として提案を活かしていくとの回答があった。

6) 学術大会の予定

近藤理事長より、学術大会2025(第14回)の参加者数が3,873名であったこと、令和7年度定時総会において報告しているとおおり、学術大会2026(第15回)が令和8年3月7日～8日に福岡国際会議場・福岡サンパレス、学術大会2027(第16回)が令和9年3月6日～7日に浜松アクトシティ、学術大会2028(第17回)が令和10年3月18日～19日に幕張メッセ、学術大会2029(第18回)が令和11年3月17日～18日に仙台国際センターで開催される予定であることが報告された。

また運営規則第5条第3項に基づき、学術大会2030(第19回)の大会長として、松井礼子氏(国立国際医療センター)が選任されたことが報告された。なお、実行委員長は未定であると報告された。

7. 学術大会2026大会長・実行委員長挨拶

下川友香理大会長、高橋郷実行委員長より挨拶が行われた。

8. 閉会の辞

鈴木(賢)副理事長より閉会の挨拶が行われた。

以上をもって本日の議事を終了し、閉会した。

上記の決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長および出席理事がこれに記名・押印する。

令和8年 3月 6日

一般社団法人日本臨床腫瘍薬学会定時総会

議長 上ノ段 友里

副議長 畠山 智明



理事長	近藤 直樹
副理事長	大塚 昌孝
同	小笠原信敬
同	鈴木 賢一
同	松井 礼子
同	米村 雅人
理事	青柳 吉博
同	川上 和宜
同	小井土 啓一
同	櫻井 洋臣
同	清水 久範
同	下川 友香理
同	鈴木 真也
同	高橋 郷
同	玉木 慎也
同	長久保 久仁子
同	中澤 寛仁
同	中山 季昭
同	縄田 修一
同	野村 久祥
同	花香 淳一
同	松尾 宏一



同 村田 勇人



同 山口 健太郎



同 山口 拓洋



(以下余白)